Study

ヒスロム

活動紹介展示

せんだいメディアテーク 7階ラウンジ

観覧無料

2017 1.14[土]～2.21[火] 1.26玉は休館 9:00-22:00

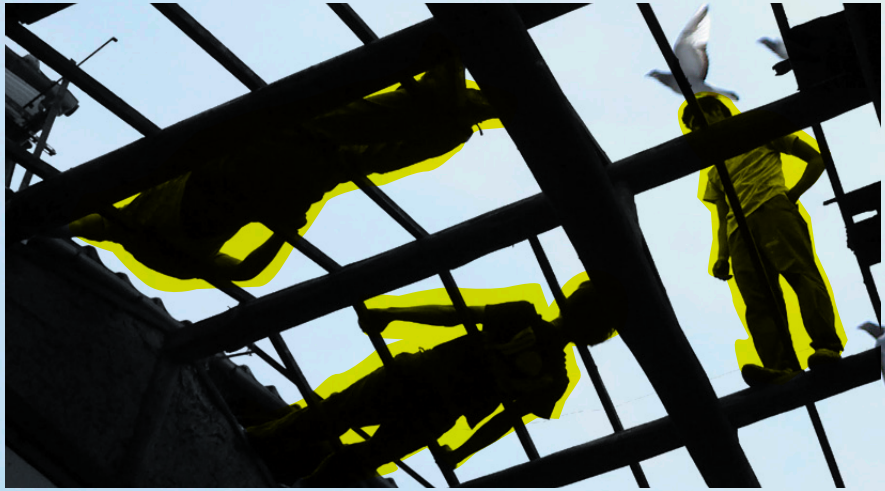
主催：せんだいメディアテーク（公益財団法人 仙台市市民文化事業団）　助成：一般財団法人 地域創造

この用紙はリサイクルできます

2016年度から2018年度にかけて
せんだいメディアテークでは、
アーティストグループ hyslom（ヒスロム）を招聘し、
彼らが地域への滞在と調査にもとづいて制作した成果を
2018年度に展覧会として発表します。
ヒスロムは、宅地開発される造成地やレース鳩の文化など、
消えゆく風景や未知の対象に接触し、
その体験を映像記録や集められたモノなどによって
伝える表現をしています。今年度は、
ヒスロムのこれまでと近年の活動を展示で紹介します。

関連イベント
「ヒスロム報告会2016-2017」
2017年1月14日［土］14:00〜16:00
参加無料（飲み物代は別）
先着30席程度
会場：ギャラリーターンアラウンド
（仙台市青葉区大手町6-22）

2009年、自宅前の道から山を見ると一部がガサッと削れている事に気が付いた。
都市へと移り変わって行くその場所と関わるようになり、かれこれ8年目になる。
5年前、大きな作品を造りたいと思い作業場を探し始め、家主の任秀夫（にんひでお）さんと伝書鳩／レース鳩と出会う。
任さんは「鳩レースでは空へ放った後は全て鳩に委ね、人は見えない鳩を想像しながら待つことしかできない。」と言う。
モノを作る中で任さんと鳩を知り、作家活動で様々な土地を訪れることで、各地の鳩に関わる人や鳩小屋と
接するようになった。遠くの土地から帰ってくる鳩、その見ることのできない道程を想像することは、
訪れた先で出会った大切な人たちや、数々の生き物とモノのことを考え、
足下の土地と対話する感覚に似ている。いまだ見たことのない風景を描くように。



HySlom/ヒスロム　加藤至、星野文紀、吉田祐からなるアーティストグループ。2009年より活動をはじめる。造成地の探険で得た人やモノとの遭遇体験や違和感を表現の根幹に置き、身体を用いて土地を体験的に知るための遊び「フィールドプレイ」を各地で実践し映像や写真、パフォーマンス作品としてあらわす。またその記憶を彫刻作品や舞台、映画へと展開させている。2015年から任秀夫氏と共に「任・ヒスロム鳩舎」として日本鳩レース協会に入会。レース鳩に関するワークショップや展示などもおこなっている。

お問い合わせ：せんだいメディアテーク 企画・活動支援室 〒980-0821仙台市青葉区春日町2-1 tel.022-713-4483 fax.022-713-4482 office@smt.city.sendai.jp www.smt.jp